

案件概要書

2017 年 6 月 27 日

1. 基本情報

- (1) 国名：タジキスタン共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ハトロン州
- (3) 案件名：クルガンチュベ-キジルカラ間道路改修計画（The Project for the Rehabilitation of Qurghonteppa - Qizilqala road）

(4) 事業の要約：

本事業は、国際幹線道路の一部であるクルガンチュベ-キジルカラ間道路の改修を実施することにより、安全かつ円滑な交通の確保を図り、もってタジキスタンの経済・インフラ整備に寄与することを目的とする。

2. 事業の背景と必要性

(1) 本事業を実施する外交的意義

タジキスタンはアジアと欧州、ロシアと中東を結ぶ地政学的に重要な地域に位置。同国の安定はイスラム過激勢力の拡大の抑制にもつながる。

我が国は、経済インフラ開発を重点課題として、国内における都市・地方間の利便性の改善、及び中央アジア諸国及びアフガニスタンとの連結性を強化し、物流改善による地域経済の活性化・安定化に貢献すべく、老朽化した道路改修とその維持管理体制の整備を中心とした運輸インフラの整備を行っている。

2015 年 10 月に安倍総理がタジキスタンを訪問した際の共同声明においては、質の高いインフラ投資の推進を必要不可欠とし、運輸分野における実務的協力の重要性が指摘された他、本年 5 月に開催された「中央アジア＋日本」対話・第 6 回外相会談において「運輸・物流協力イニシアティブ」を打ち出し、運輸・物流分野における貢献が期待されているところ、本道路改修計画の実施を通じて、首脳・外相レベルでの議論の成果を着実に積み上げていくことは、同国との二国間関係の強化に寄与するものであり、外交的な意義が大きい。

(2) 当該国における道路セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

タジキスタン共和国は、貨物輸送の約 65%、旅客輸送の約 99%を道路交通に依存しており、道路交通が国内輸送の中核を担う。また、国内の物流だけでなく周辺国との交易についても道路輸送網が利用されており、幹線道路は同国経済の主要な機軸となっている。特に首都ドゥシャンベと第二の都市クルガンチュベを結ぶ道路は、主要幹線道路であることから、国内で最も重要な道路の一つに位置付けられている。更に、ドゥシャンベ-クルガンチュベ間道路はアジアハイウェイ 7 号線の一部を構成し、アジア開発銀行（以下、「ADB」という。）の主導する中央アジア地域経済協力（以下、「CAREC」という。）の国際回廊（CAREC6）の一部として国際的にも重要な道路の一つとなっている。これら国内の道路網の多くは旧ソ連時代に建設されたが、1991 年の独立後の内戦及び経年による損傷・老朽化が進行し、経済

活性化の阻害要因となっている。ドウシャンベ-クルガンチュベ間の道路も、既存の 2 車線道路の舗装状態は劣悪であり、早期の改修が喫緊の課題である。

同国政府の長期戦略「2030 年までの国家開発戦略」(NDS: National Development Strategy to 2030)においては、持続的な経済成長の観点から国際幹線道路の整備及び運輸交通分野の制度改善が必要とされている。

クルガンチュベ-キジルカラ間道路改修計画（以下、「本事業」という。）は、ドウシャンベ-クルガンチュベ間の道路（全長約 83.6km）のうち一部区間を改修するものであり、年間交通量の伸び率が 7%を超える同路線の改修及び四車線拡幅は同国の経済活性化に向けて必要不可欠であり、上述の長期戦略を具現化するものとして位置付けられている。

(3) 道路セクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

我が国は対タジキスタン共和国国別開発協力方針（2012 年）において「持続的な経済・社会発展が可能な国づくり支援」を援助の基本方針とし「経済インフラ整備」を重点分野に位置付けている。同分野では物流改善による地域経済の活性化・安定化に貢献すべく、老朽化した道路改修とその維持管理体制の整備を中心とした運輸インフラの整備支援を掲げており、本事業は我が国の協力方針に合致する。

(4) 他の援助機関の対応

同国の道路セクターについては、ADB、アジアインフラ投資銀行、欧州開発復興銀行等の支援実績がある。ドウシャンベ-クルガンチュベ間の道路（全長約 83.6km）のうち、ドウシャンベ側から約 33km 地点までは ADB による支援で改修されることが決定しており、約 33km 地点から約 75km 地点までにおいても ADB による支援が検討されている。本事業では約 75km 以後の区間（クルガンチュベを起点にキジルカラまで北へ 8.5km）において支援を行うもの。ニジノピャンジからアフガニスタン国境にまたがるピャンジ河は 2007 年に米国の援助により橋梁が建設された。

(5) 本事業を実施する開発政策上の意義

本事業は、同国における最も重要な国際幹線道路の一つを改修することにより、安全かつ円滑な交通の確保を図り、もって同国の経済・社会の発展に寄与するものであり、同国の開発政策及び我が国の協力方針と合致する。また、SDGs ゴール 9 に貢献することから、無償資金協力にて本事業の実施を支援する必要性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業は、国際幹線道路の一部であるクルガンチュベ-キジルカラ間道路の改修を実施することにより、安全かつ円滑な交通の確保を図り、もってタジキスタンの経済・インフラ整備に寄与することを目的とする。

② 事業内容

ア) 施設・機材等：道路改修 8.5km（既存 2 車線の 4 車線化）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計・施工監理

ウ) 調達・施工方法：本邦／第三国調達（詳細は協力準備調査により確認する。）

③ 他の JICA 事業との関係

特になし。

(2) 事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制：運輸省（Ministry of Transport :MOT）

② 他機関との連携・役割分担：協力準備調査により確認する。

③ 運営／維持管理体制

運輸省、クルガンチュベ道路維持管理局及び傘下の道路維持管理事務所が運営・維持管理を担うことが想定されるが、協力準備調査により改めて確認する。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 ☐A ☒B ☐C ☐FI

② カテゴリ分類の根拠：

本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

(4) 横断的事項

特になし。

(5) ジェンダー分類

ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

(6) その他特記事項

特になし。

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

タジキスタン共和国の無償資金協力「ドウスティ-ニジノピヤンジ間道路整備計画」（評価年度 2012 年）の事後評価結果等では、設計当時の行き過ぎたコスト縮減のために必要最小限のスペックで設計・施工がなされたことにより、完工後に舗装の破損が数多く生じ、瑕疵期間中に施工業者による補修が必要となったことから、設計条件をよく確認すべきとの教訓が得られている。これらの教訓を生かし、本事業では協力準備調査の段階において十分に必要な情報を収集及び検討を行うことにより、適正な事業規模のもと、品質、安全等の観点から必要となる予算を確保したうえで事業化を行う必要がある。

以 上

[別添資料] 地図

クルガンチュベ-キジルカラ間道路改修計画 地図

タジキスタン共和国

